

〔目的〕女性の体幹部の大きな特徴の一つは乳房部にある。これを整容するには適合性にすぐれたブラジャーを着用する必要がある。“より美しく”“より着心地よく”とデザイン・素材の研究開発により「オニの皮膚」とまで近年よばれるようになってきた。「ボディをサポートし運動を助ける」というブラジャーの運動機能性には、動作に伴う乳房の振動と移動などが関与するが、これらの運動機能性に関してはいくつかの問題点が指摘されよう。今回は市販されているブラジャーの着用実験を行ない、スポーツブラジャーを中心に特に運動適応性について比較検討することを目的とする。

〔方法〕①被験者 成人女子6名(A70, B70各3名) ②実験試料 スタンダードブラジャー、アンダーメッシュブラジャー、ソフトワイヤーブラジャー、スポーツブラジャー、不適応ブラジャー ③着用実験 ・ポジションセンサによる乳房部振動測定および上挙時のずれ測定 ・写真撮影による上挙時のずれ測定および運動時のずれ測定 ・衣服圧測定

〔結果〕①ヌード時の乳房部の振動は不安定であり、ブラジャー着用により振動が抑制され振動にも規則性がみられる。特にスポーツブラジャーでは、それが顕著である。②ずれは「1回目の伸び」によりほぼ決定される。③不適応カップサイズのブラジャーは、着用時におけるずれが大きい。④測定部位別にみたずれ順位は、乳頭線>前正中線>腋窩線>肩甲線>後正中線となる。⑤ハードのスポーツにはスポーツブラジャーの適応性は大きい。⑥スポーツブラジャーは、衣服圧測定の結果最小値を示す。